



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.58
絵はがきで見る六甲山/
石戸 信也
2008年1月発行



石戸コレクションの絵葉書

第58回テーマ： 絵はがきで見る六甲山

講演内容

- 昔の絵葉書に見る神戸の景観
- 六甲山・有馬と絵葉書の歴史
- ノスタルジーから未来へ
- ・・・絵葉書から何を学ぶか・・・

実施日：平成20年1月19日（土）
午後1時～3時30分
場 所：六甲山YMCA里見ホール



講師：石戸 信也さん
プロフィール

1958年神戸市生まれ。同志社大学文学部卒業。博物館・美術館学芸員資格習得。各地の県立高校で歴史を担当し、県立人と自然の博物館などを経て、現在、県立兵庫工業高校・教諭。専門は文化史・日欧文化交流史。

自然歩道は雪化粧

1月に入り、冬も本番。六甲山にも雪が降る季節になりました。この日は、日陰はうっすらと雪化粧していました。散策路脇の二つ池は凍結し、幻想的な光景でした。午前中の景観整備活動では先月に続いて植生調査の区画設定をしました。気温は0度前後という寒さでしたが、参加した12名には心地よい涼しさ。汗をかきながら作業しました。



二つ池は幻想的な雰囲気

石戸さんは日本有数の絵葉書研究家

講師の石戸さんは神戸ご出身です。震災以降、神戸の懐かしい風景が変わっていくのを目にされました。かつての姿を「誰も知らない昔の話」にしないため、絵葉書の研究を始められたそうです。今ではコレクションは4000枚に及び、「石戸コレクション」として各所で紹介されています。セミナーでは神戸市民が一気に六甲山に登り始めた、昭和初期に焦点を当てていただきました。

昭和初期、市民が六甲山に熱中した

講演では絵葉書の歴史や、市民と六甲山の関わりの歴史を多数のスライドをもとにお話いただきました。六甲山と市民の関係は、昭和初期の10数年の間で一気に深まり、戦争とともに一気に薄くなっていった。昭和初期は市民と六甲山の関わりを考える上で重要な時期で、今後の六甲山のあり方を考える上でも参考になる、と解説されました。

「六甲山のアイデンティティ」を位置づけたい

多数の貴重な絵葉書を石戸さんにご紹介いただきました。紹介にとどまらず、六甲山や山麓を考える示唆に富んだお話でした。石戸さんの「神戸のアイデンティティを大切にすべき」というお考えは、私たちにとっては「六甲山のアイデンティティ」に繋がるお話でした。六甲山をどう位置づけていくのか、これからの重要な課題を提起していただきました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 小立 薫さん

二つ池の調査に参加。駐車場から程近く、踏み跡のない白い雪の下の池を見て驚いた。下界では見ない霜柱が輝いて美しく、粉雪の中、小さいきのこが一つ。凍てつく寒い池にすむ昆虫など、二つ池の講座に参加して以来興味を持っていたが、小さな池とその周りの自然に魅せられた。絵葉書についての講演は、その時代にいなかった私が何故かにつかしく思える風景で、神戸の歴史と自然を大切にしていきたいと感じた。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
コベルコ環境保全基金、セブン・イレブンみどりの基金
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金
しみん基金・こうべ